



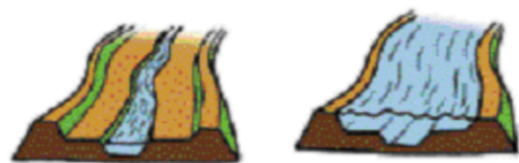
# 風水害に備えて

近年、梅雨前線の停滞や台風の接近などを原因として、同じ場所に大量の雨を降らせる「線状降水帯」や、大気の状態が不安定となって積乱雲が発達し、短時間に局地的に激しい雨を降らせる「局地的大雨（ゲリラ豪雨）」の発生が増えています。柳川市でも、過去に大雨による河川のはん濫で、浸水被害が発生したり、暴風により電柱が倒れたり、農水産物の被害が発生したりしています。

## 洪水の基礎知識

こうすい  
**洪水**

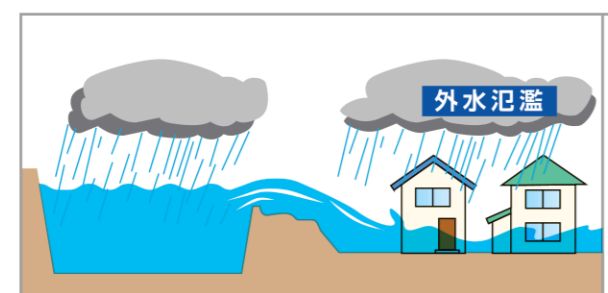
洪水とは大雨によって、川の水の量がふだんより、いちじるしく増えた状態を言います。河原へ行くと広い敷地のわりに細い川しか流れていませんが、この状態がふだんのすがたです。ところが、川幅いっぱいに水がおしよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。このように異常に水が増えたときを「洪水」といいます。



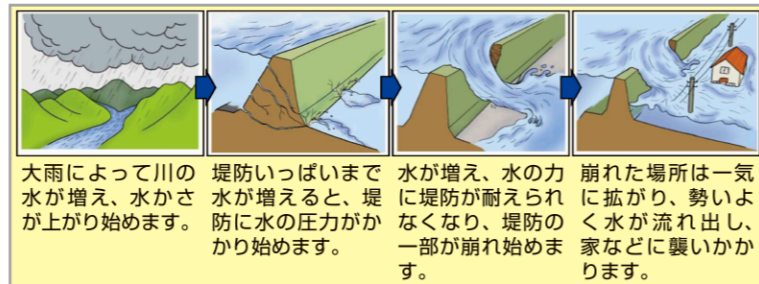
はんらん  
**氾濫**

### ● 外水氾濫

雨などによって、街や農地などに水があふれることで、川から水があふれることを「外水氾濫」といいます。



**発生仕方**  
大雨により大きな河川の水量が増え、堤防が決壊したり、堤防を越えて水があふれだす氾濫

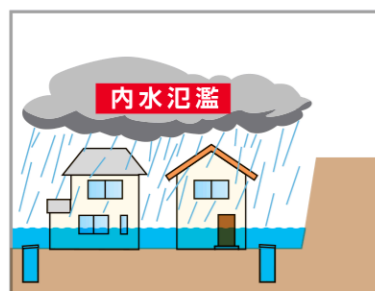


大雨によって川の水が増え、水かさが増え、堤防に水圧がかかり始めます。堤防がいっぱいまで水が増えると、堤防に水圧がかかり始めます。水が増え、水の力が堤防を耐えられなくなり、堤防の一部が崩れ始めます。崩れた場所は一気に拡がり、勢いよく水が流れ出し、家などに襲いかかります。

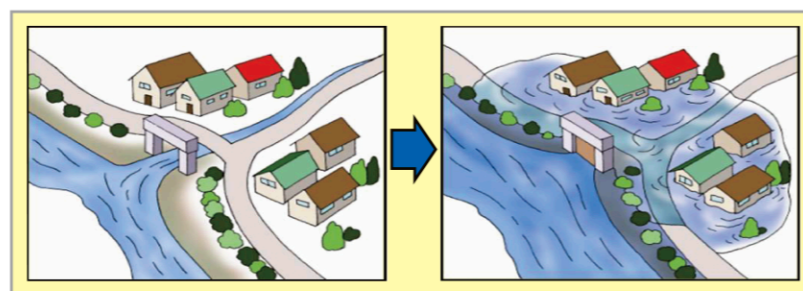
堤防決壊のイメージ

### ● 内水氾濫

川から水があふれたのではなく、街や農地に降った雨がそのままたまってあふれることを「内水氾濫」といいます。



**発生仕方**  
雨水を河川へ流す排水が追いつかず、小さな川や側溝から水があふれる氾濫



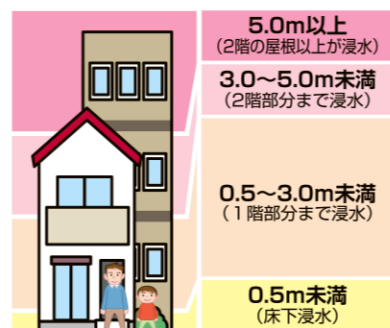
内水氾濫発生イメージ

こうすい

### 洪水浸水想定区域

地図面に洪水浸水想定区域として記載しています。➡

国土交通省及び都道府県では、洪水予報河川及び水位周知河川、想定し得る最大規模の降雨により当該河川が氾濫した場合に、浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域として指定し、浸水した場合に想定される水深、浸水継続時間を洪水浸水想定区域図として公表しています。



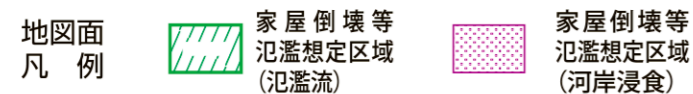
かおくとくかいとうはんらん

### 家屋倒壊等氾濫想定区域

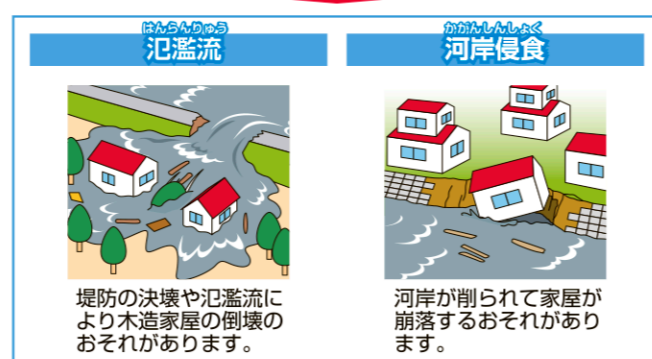
想定最大規模の降雨の場合に、家屋が倒壊するような氾濫流や河岸浸食が発生するおそれが高い区域です。

この区域では、洪水時には河川から離れた安全な場所へ、早めの避難を心がける必要があります。

地図面に家屋倒壊等氾濫想定区域として記載しています。



これらの区域では確実に早めに立退き避難をしてください



## 大雨時は早めの避難をしましょう。

危険が迫る前に早めの避難が必要です。避難場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)も考えましょう。既に浸水しているなど、避難場所への移動が危険な場合は垂直避難を行い救助を待ちましょう。

### 避難場所への移動(水平避難)



避難をするなら浸水前に早めの避難を!

### 高所への移動(垂直避難)



浸水後も安全に自宅滞在が可能なら家屋や家財の被害軽減を!

### 危険な避難



非常に危険です

## やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意

- 長靴や裸足は危険です。運動靴をはきましょう。
- 長い棒を杖代わりにして、水の中の障害物に注意しましょう。
- マンホール等のふたが開いている場合があります。
- 歩ける深さの目安は膝下までです。流れが速い場合は非常に危険です。
- はぐれないようにお互いの身体をロープで結んで避難しましょう。
- 切れた電線など、危険な場所には近寄らないようにしましょう。

## 気象庁のホームページ、「キキクル」を活用しよう!

気象庁 HP の「キキクル(危険度分布)」とは、大雨や洪水による災害の危険が、どこで、どのレベルで迫っているかを、地図上で視覚的に知ることができる情報です。大雨による土砂災害の危険度は「土砂キキクル」、短時間の強雨による浸水害の危険度は「浸水キキクル」、河川の洪水災害の危険度は「洪水キキクル」で、確認することができます。

自分がいる場所の「キキクル」を確認しましょう。

「気象庁ホームページ」



検索▶

## 高潮が発生する3つの要因と注意すべき点

高潮は、台風や発達した低気圧により波浪が発生して、海面の高さが異常に高くなる現象です。気象情報に注意しながら、早めの避難を心掛けましょう。

### 【3つの要因】

- 1 気圧低下による海面の吸い上げ
- 2 風による吹き寄せ
- 3 波浪による海面の上昇

### 【注意すべき点】

- 満潮時、特に大潮時に発生しやすい。
- 台風接近時には、高潮の発生に警戒する。
- 大雨や暴風により避難が困難になることがある。
- 浸水時には、暴風雨のなか、濁流と漂流物で歩行が困難になる。
- 浸水時に自動車で避難することは大変危険である。

